

(別紙)

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本的な理念に基づいて介護しています。	4項目の理念が玄関に掲示してあり職員会議などで確認し合っている。研修会の折にも話し合うことがある。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事(ふれあい広場、餅つき、どんど焼き)に参加したり、清明小学校と交流(運動会、音楽会、交流会)している。登下校時に児童が手を振ったり、声をかけてくれます。	分館行事などへ参加しており、小学校の生徒との交流が頻繁に行われている。小学生がゲームをしてくれたり、学校帰りに気楽に寄っていったりと関係作りがよくできている。小学校から車いすを寄付してもらった経過もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習生を受け入れている。随時、地域の方々から相談を受けています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を2ヶ月に1回実施し、参加者と取り組み状況等、情報を共有している。今年度より自治会長にも参加してもらっています。参加者より、意見いただいています。	奇数月の第3水曜日に定期的に運営推進会議が開催されている。家族や行政、地域住民、自治会長など幅広い層の方に参加頂いて有意義な会議が開かれている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で意見交換したり、市へ相談、問い合わせ等、必要に応じて行っている。介護相談員の訪問があります。	上田広域の介護相談員が年4回意見を聞きにきている。行政とは必要に応じて相談をしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について理解し、身体拘束をしない工夫を、職員同士で話し合っている。玄関出る際ロック式になっているが、外へ行きたい時は一緒に出られるようにしている。	身体拘束をしないための理念が玄関に掲示してあるが、玄関先が通路になっており車の往来があつて危ないので施錠してある。高齢者虐待防止法について昨年11月に職員間で研修し意識の統一を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、文献や研修で学び理解を深め、防止に努めている。		

グループホーム北大手

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加したり、制度の説明が必要な方には、情報提供している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明を行い、理解を得ている。重度化した場合における対応について説明したり、介護報酬の改定があった場合等、口頭や文書で説明している。入居後、不安なこと、疑問点等相談も受けています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口について掲示している。家族には面会時、遠方の家族には電話で、入居者には日常生活の中で話を聞いている。法人の運営会議で改善を検討する体制がある。	利用者から意見を聞くのは難しいので、直接家族から要望意見を聴いている。利用者の行動などから希望を判断してケアにつなげている。施設の行事には家族にできるだけ来て頂くようにして、意見を聴く機会を作っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議や、日々の申送りの中で意見を出し合い、反映させている。	毎月第2木曜日の午後7時から職員会議をして個別記録の検討などを行っているが、職員9人が全員参加しており、チームワークもいい。就業規則に沿って人事管理がされているので職員の不満も少ない。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断は年2回実施。就業規則あります。小スペースであるが、休憩スペースを確保している。資格の取得や研修等について支援がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修参加をすすめ、研修の報告は月1回の会議で行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野県宅老所グループホーム連絡会に加盟しており、上小圏域でグループホームフレンド会の活動で相互評価、交流をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に希望聞き、状況に応じて体験入居してもらい要望等把握しています。それぞれの状態に応じて、入居しやすいようにしています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後から来所時や電話で連絡を密に取り、十分に話をし関係づくりに努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、体験入居時の状況状態に応じて、必要があれば他のサービスについて、情報提供をしたり支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの得意な事、できる事を行ってもらっている。昔の事教えてもらったり、馴染みの物を取り入れています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の体調や生活の状況を月1回の通信や来所時に報告している。行事にも参加してもらったり、関係が途切れないようにしています。様子に変化あった時は電話で連絡している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないように、自由に面会できる環境を整え支援に努めています。	利用者の希望に沿って、親しかった人への年賀状の代筆や、なじみの美容院等へ出かけたたりもする。時には家族の支援で外出して食事をしてくることもある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握した上で、食堂の席を決めたり、気の合う入居者同士で楽しく過せるように外出の組み合わせ等配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院に移る場合は情報提供を行い、退居後も面会や必要に応じて、相談話しています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりコミュニケーションの中から、それぞれの思いや希望をくみ取っています。また、家族からも話を聞き意向を把握しています。	基本的には家族からの聞き取りなどで入所時のアセスメントにより利用者の思いや意向の把握をしている。食べ物の好き嫌いについてはキッチンに張って好みのものを提供できるよう努力している。生活歴などにより職員は意向の共有をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者とのコミュニケーションや、家族からの生活歴の聞き取りで、把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申送りで様子を把握し、バイタルチェック、食事量、行動、体調等によって過し方に配慮しています。変化ある時は、注意して様子をみています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中から、本人、家族の思いや意見希望を聞き、カンファレンスを行い、より良く過ごす事ができるように、介護計画を作成している。	職員は、アセスメント表で本人の状況を把握し、カンファレンスを実施している。長期、短期の目標について検討し、目標変更のプロセスがわかる記録がある。	実施したサービスについて自己評価をし、施設が目指すより良いサービスについて話し合い、記録に残していくことが望ましい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日中、夜間の体調や日々の暮らしの様子等を記録し、申送りで情報を共有している。また、月1回の会議でそれぞれの様子等話し合い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況や要望に応じて通院、外出、面会の支援を行い柔軟に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事(ふれあい広場、餅つき、どんど焼き)に参加したり、清明小学校と交流(運動会、音楽会、交流会)している。運営推進会議で市職員、地域住民、自治会長に参加してもらい協力を得ている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の医療機関で定期的を受診、往診を受けている。また、診療科目にないものについては、状況に応じて職員、家族が付き添い紹介状で情報提供し、受診の支援をしている。	併設病院の医師が主治医になっており月2回の受診又は往診がある。医療機関と併設されているので緊急時の対応など安心感がある。歯科は訪問歯科医に来てもらっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の医療機関の看護師による訪問が定期的にある。訪問時にバイタルチェック、状態みてもらっています。状態に応じて受診、入院と適切な看護が受けられるよう支援しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に情報提供し、様子をみに行ったり、連絡もらっています。退院時はサマリーもらい、入院時の状態把握ができるように連携をとっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を踏まえ、主治医と連携をとり状態が変化しても、安心して暮らせるように取り組んでいる。	病院が併設されているので緊急時は病院に搬送することになり施設での看取りはない。食べることと排泄ができれば最期まで看ることができる。食べられなくなった時については家族と随時話して決めていくようにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の研修を年1回実施している。24時間主治医、病院と連絡がとれる体制がある。緊急時の対応マニュアルがある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。防災マニュアルがあり、併設施設からの協力体制がある。	法人全体の避難訓練を年2回実施している。連絡網、消防署への直接連絡システムができており、消防署が近いこともあり安心感がある。非常口からの避難方法について作成したものがある。	避難訓練の検証を職員全員で行い、より短時間で避難できるよう習熟度を高めてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけは、プライドを傷つけないように気を付けている。個人情報の取り扱い、守秘義務を理解し、責任ある取り扱いをしている。	利用者には指示的な言葉遣いにならないよう注意している。職員には採用時に秘密保持の誓約書を書いてもらっており、プライバシー保護マニュアルの確認を内部会議などでしている。	年間の研修計画を作成して定期的に職員全員が基礎研修を受けられるよう整備されたい。コンプライアンスについての研修実施を希望する。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞いたり、日常生活の中から希望をくみ取っている。また、発言しやすい場面づくりもしている。なるべく本人が選び決められるようにしえんしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、買い物、散歩、部屋で休みたい等、それぞれのペース、体調、希望に合わせて支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞き、理容店でカット、カラー、パーマしてもらっています。家族と外出で行く方もあります。身だしなみも好みでできる様に支援しています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に季節の物を取り入れたり、好き嫌いを把握した上で、食事を用意しています。また、個々の状態に合った食事形態にしている。食材の買い物、食事の用意、後片付け一緒にしています。	個人の好き嫌いを把握して調理場に掲示しており、好みに合わせて作るよう心がけている。管理栄養士が献立作成をしており栄養面への配慮が高い。最近は刻み食の人が増えており呑み込みを注意してみている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事、水分量把握しており、摂取少ない方には声かけ摂取促したり、好みの物、食べやすい物を出し、状態に応じた支援をしています。必要に応じて、管理栄養士に相談アドバイスしてもらっています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアできない方には、声かけ、介助行い義歯洗浄しています。		

グループホーム北大手

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの状態に合わせて対応しており、排泄チェック表を用意したり、オムツ用品の使用も外出時のみにしたり、夜間はポータブルトイレ使用するなど自立にむけた支援を行っています。	排泄チェック表で尿管理をしている。水分摂取については湯茶の摂取を気をつけて管理している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	申送り、排泄チェック表で排便の有無を確認している。また、食物繊維や乳製品の摂取、身体を動かす等してもらっています。下剤も必要な方は適量を把握し、使用しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望にそうように順番等、考慮して入浴してもらっています。拒否ある場合は、時間ずらして再度声かけたり、翌日声かけています。	入浴は午後の時間帯にしている。入浴拒否する方についてもとりなしながら週2～3回は入ってもらうよう努力している。シャワー浴ではなく全員浴槽に入ってもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調をみて、日中の活動を行い、気持ちよく眠れるようにしています。状態に合わせて就寝してもらい、眠剤服用も主治医と相談しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員にわかるように、入居者ごとに薬の説明書を用意しています。薬剤師の訪問もあり、併設の医療機関と連携をとっています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動が行えるように支援したり、外出、行事で楽しみ気分転換できるようにしている。家事等もそれぞれの力を活かして、できる事行ってもらい、感謝の言葉添えています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事で花を見にでかけたり、ドライブや散歩車いす使用してでかけたりしています。家族の協力による外出もあります。外出の際、近所の方が手を貸してくれる事もあります。	上田城址公園に出かけたり、個人の希望でダイソーやラーメンを食べに出かけたりもする。ふれあい広場などでは近所の方が手を貸してくれることもある。帰宅欲求の人には散歩やドライブで対応している。	

グループホーム北大手

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの状態に応じて、持ってもらうか、金庫に預かり金を用意し、必要な時に使用できるようにしています。家族に預かり金の取扱いについて同意を得ています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡を取りたい時に電話したり、手紙や普段出さない方にも年賀状を出せるように支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるように、室温や日光の差し込み、照明に配慮しています。食堂等には、花や装飾品を飾り、季節感を出しています。限られたスペースを活かせるように、園芸ボランティアの協力でテラスに花植えています。	室温20～23度で管理され床暖の快適な住環境である。陽もよく差し込み明るい環境の中ゆったりと過ごされている利用者の様子が見える。加湿器、イソジンのうがい薬なども用意されインフルエンザ対策もされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は食堂のみですが、入居者の相性によって席決めています。気の合った者同士で思い思いに過ごせるようにしています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や使いやすい物を持ってきていただき、居心地良く過ごせるようにしてもらっています。	一部屋8畳のスペースで広々としている。個人で差はあるが好きなものを持ち込んで自由に配置している。個室間の行き来はないようだ。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体状況に応じて、手すりを増設したり、居室内も安全に生活が送れるように、センサーマットや移動バー等使用したり、環境整備しています。		